

【平成 30 年度】逗子市スポーツ推進計画 評価調書

事業名	逗子市スポーツの祭典の開催
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(1)
事業のねらい	全ての市民にスポーツ機会を提供し、継続的にスポーツを実施するためのきっかけづくり。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①逗子市スポーツの祭典の開催	実施		
②高齢者向けのスポーツ種目の検討	検討	実施	見直しと実施
③障がい者向けのスポーツ種目の検討	検討	実施	見直しと実施
④東京オリンピック・パラリンピック開催記念イベントの検討及び開催	検討		実施

事業予算	30年度	事業決算	30年度
	0円		0円

平成30年度の実施結果・特筆すべき実績	
①逗子市スポーツの祭典の開催	<p>市の財政対策プログラムにより、スポーツの祭典実行委員会交付金はゼロとなった。これをきっかけに、逗子市スポーツの祭典2018は市民まつりと共同で開催することとなり、10月21日(日)に開催した。</p> <p>昨年から12種目減の25イベントの実施となったが、事業内容の見直し等により参加者数は延べ1,731人となり、昨年より87人増加した。</p> <p>「ボッチャ」「ビームライフル」「車いすレース」などのパラスポーツをはじめ、「カローリング」「フレスコボール」「神奈川工科大学ロコモ診断」「体力測定」など、誰もが気軽に参加できるメニューを提供し、スポーツを始める機会の提供と継続的にスポーツを行うきっかけづくりとして実施できた。</p>
②高齢者向けのスポーツ種目の検討	<p>「コグニサイズ」「ターゲット・バードゴルフ」「社協の健康づくり」「神奈川工科大学ロコモ診断」等、高齢者が参加しやすいイベントを実施し、参加者数は、延べ266人であった。</p>
③障がい者向けのスポーツ種目の検討	<p>「ボッチャ」「ビームライフル」「車いすレース」等を実施し、障がい者スポーツに触れる機会を設けた。</p> <p>また、障がいのある方も健常者も一緒に参加できる「みんなでスポーツ」、「みんなでラジオ体操」及び「みんなでダンス」を実施し、延べ82人が参加した。</p>
④東京オリンピック・パラリンピック開催記念イベントの検討及び開催	<p>オリンピック種目は、「卓球体験」「バドミントン体験」及び「ソフトボールピッチング講習会」を実施し、延べ97人が参加した。</p> <p>(「ラジコンヨット疑似体験」は、逗子市民まつりの中で実施)</p> <p>パラリンピック種目は、「ボッチャ」「ビームライフル」及び「車いすレース」を実施し、延べ272人が参加した。</p>

平成 30 年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃スポーツをしない方や子ども、高齢者、障がいのある方等が興味を持って参加しやすいメニューを多く実施したことから、「スポーツ機会の提供」及び「スポーツのきっかけづくり」に結びつく。 ・スポーツの祭典の実施後に、うみかぜクラブに 15 人の新規登録があり（12 月まで）、スポーツを始めるきっかけづくりとなる。 ・「神奈川工科大学ロコモ診断」「3033 運動、体力測定」「出張未病センター」等による「健康づくり」、「コグニサイズ」「ターゲットバードゴルフ」等の高齢者向けのイベント、「みんなでスポーツ」「みんなでダンス」等の障がい者向けのイベントを実施することによる「場づくり」及び誰でも参加できて楽しめる「ポッチャ」等を実施することによる「交流づくり」に寄与する。 ・パラリンピック種目である「ポッチャ」「ビームライフル」等の面白さを伝え、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの機運醸成を図ることができる。（オリ・パラ種目の合計参加者数は、延べ 369 人であった。） 	
<p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者、障がいのある方と健常者、日頃スポーツに触れる機会の少ない人と毎日スポーツを楽しむ人等、状況が異なっても、誰でも、どこでもスポーツや体力づくりに取り組めることをアピールするとともに、スポーツを始める機会の提供と継続的にスポーツを行うきっかけとなる。 ・イベントの実施により、既存スポーツ施設の利用促進が図られるとともに、様々な人々や団体と触れ合い、お互いに理解を深めることで、活力に満ちたまちづくりに可能な限りの効果をもたらし、スポーツに関わるきっかけが生まれやすい環境づくりを推進することができる。 	
所管課による自己評価	<p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。 C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。 D：事業見直し、又は事業中止。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者まで、障がいのある方も健常者も、すべての市民が気軽にスポーツを取り入れ、スポーツを楽しむ機会を提供し、継続的にスポーツを実施するきっかけづくりとするという、スポーツの祭典の目的については、逗子市スポーツ推進計画の基本目標である「健康づくり」、「場づくり」及び「交流づくり」に寄与できる内容であった。 ・市の財政対策等で市の交付金がゼロとなり、実施規模は縮小したものの、事業内容の見直し等により参加者数は増加し、おおむね、計画の目標は達成できていると考える。 ・全体として B と評価する。 	
審議会での意見	
<p>●評価は B が適当と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算のない中で参加人数が増えるよう、関係者がアイデアを出して参加しやすい内容にしたことは評価できる。 ・市民まつりと共同開催することで、イベント種目数は減ったものの参加者が増えたことは評価できる。 ・また、パラリンピックの機運を高めることが期待できる「ポッチャ」等を体験する機会を設ける取組みは評価できる。 ・「スポーツの祭典」をきっかけとして、うみかぜクラブ新規登録につながったことは評価できる。 ・ここ数年で「スポーツの祭典」の周知が広がった。 ・逗子市スポーツ推進計画の基本目標である「基盤づくり」は、施設の整備改修を主な内容としていることから、所管課の自己評価から外しているが、「基盤づくり」ができているからこそ、スポーツに関わるきっかけが生まれやすい環境づくりを推進することが可能であると評価できる。 ・より活かす予算の使い方、注目されるゲストを呼ぶための予算等が得られれば、より良いものつながる。 	

事業名	スポーツと健康づくりに関する情報の充実と提供
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(2)
事業のねらい	地域のスポーツ指導者などを活用し、初めてスポーツをする方や、スポーツについてもっと知りたい・楽しみたい方の欲求を充実させ、新たな交流を創り出す。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①スポーツ指導者や子ども向けスポーツチームのデータベース化と活用	データベース化	データベースを活用した情報の提供と登録者の充実	
②スポーツ・健康づくりに関する専門家の発掘と活用	内容検討	学習会の実施及び見直し	
③初めてスポーツに取り組む方や健康づくりを目指す方への情報提供・相談対応	内容検討	情報提供や相談への対応の実施	

平成30年度の実施結果・特筆すべき実績	
①スポーツ指導者や子ども向けスポーツチームのデータベース化と活用	<p>年度当初に「小学生のためのスポーツ団体一覧」を市立小学校の全児童に配付するとともに、市ホームページ、ポータルサイト「ナニスル」等で公開し、周知に努めた。</p> <p>市ホームページ上で県「スポーツ指導者情報」を公開し、更新している。</p>
②スポーツ・健康づくりに関する専門家の発掘と活用	<p>「逗子市内一周駅伝競走大会」において、リオパラリンピック・パラトライアスロン競技に出場した円尾敦子選手が、市役所チームの第1走者として参加し、昨年度の「逗子市スポーツの祭典2017」で講演及び体験会を実施した脇真由美氏が伴走者を務めた。</p> <p>逗子市スポーツ人の集いにおいて、国保健康課と逗子市体育協会の共催により、メディアにも多く出演している田中俊一医師の講演会「人生が変わる睡眠の方法」を開催した。</p>
③初めてスポーツに取り組む方や健康づくりを目指す方への情報提供・相談対応	<p>市立体育館指定管理者の健康運動指導士の資格を持つ職員による「健康・体力相談」を、全43回、延べ136人に対して実施した。(平成29年度 全36回、延べ120人)</p> <p>市立体育館トレーニングルーム内に設置されている未病センターにおいて、筋肉量、体脂肪量、BMI、体脂肪率を簡単に計測できる体重計が利用できる等、引き続き健康づくりに取り組む方へのサポートを行っている。</p> <p>未病センターの利用人数は、延べ30,499人(平成29年度は30,590人)、1日あたりの利用人数は96.3人(平成29年度は91.0人)であった。</p> <p>国保健康課と逗子市体育協会が連携し、特定健診受診者を対象に、1月から3月までパーソナルトレーニングプログラム(健康、食生活、運動)を試行的に実施した。</p>

平成 30 年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	事業を行ったことにより想定される効果
<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小学生のためのスポーツ団体一覧」には、掲載取り止めが4件あったが、新規2団体の掲載依頼があった。情報を更新することで正確な情報が提供できるほか、新しいスポーツ団体が加わることは子どもの選択肢を広げるので、情報としてより良いものになっている。 ・「市内一周駅伝競走大会」において、リオパラリンピック・パラトライアスロン競技に出場した円尾敦子選手が、市役所チームの第1走者として参加し、昨年度の「逗子市スポーツの祭典 2017」で講演及び体験会を実施した脇真由美氏が伴走者を務めた。パラスポーツの専門家である脇氏とのつながりを活かすとともに、パラスポーツ選手が競技に臨む姿を直接見ることで、市民のパラスポーツへの関心の向上や、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた市民の機運醸成につながる。 ・逗子市スポーツ人の集いにおける田中俊一医師の講演会により、眠りと運動の効果についての普及啓発を図れる。 ・「健康・体力相談」は、ニーズに応じて昨年度から実施回数を増やした結果、延べ人数も増加した。市役所未病センターと連携し、スポーツによる健康づくりをサポートする場としての周知と利用が進む。 	
<p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ情報の継続的な提供は、市民がスポーツをはじめるときかけになるとともに、スポーツ団体への加入等により、スポーツを通じた市民同士の交流づくりにつながる。 ・オリンピック・パラリンピック級の高いレベルのスポーツに接することは、競技スポーツに親しむきっかけとなり、「する」スポーツだけでなく「観る・支える」スポーツへの関心や興味を高めることにもつながる。 ・「健康・体力相談」の設置は、初めてスポーツに取り組もうとする人に対して、最初の一步を踏み出しやすくするだけでなく、健康な生活習慣の重要性への気づきや理解を深めることにつながる。 	
所管課による自己評価	<p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。D：事業見直し、又は事業中止。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度から「小学生のためのスポーツ団体一覧」の配付による情報提供を開始し、毎年情報の更新を行っている。県「スポーツ指導者情報」の提供については、データベースを活用し指導者の派遣を受けた団体等と指導者とのマッチングが上手くいったかの把握はできていないので、県との情報共有等により活用状況を確認し、場合によっては提供の仕方を工夫する等について検討していく。 ・「市内一周駅伝大会」にリオパラリンピック・パラトライアスロン競技に出場した円尾敦子選手に参加していただいたことで、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた市民の機運醸成に大きく寄与した。 ・講演会及び体験会は実施できなかったものの、昨年度講演を行ったガイドランナーの脇真由美氏が伴走者を務めたことで、「逗子市スポーツの祭典 2017」からのつながりを活かすことができた。 ・逗子市スポーツ人の集いにおける田中俊一医師の講演会により、眠りと運動の効果についての普及啓発を図り、「健康づくり」に寄与することができた。 ・「健康・体力相談」のニーズに応じて回数を増やし、延べ人数の増加や内容の一層の充実を図ることができた。また、市役所未病センターと市立体育館未病センターの保健師と健康運動指導士が、役割分担をしたうえで事業を実施し連携している。ただし、健康運動指導士については現在有資格者が1名なので、今後事業が拡大するには、増員等について指定管理者と協議していく必要がある。 ・全体としてBと評価する。 	
審議会での意見	
<p>●評価は <input type="text" value="B"/> が妥当と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小学生のためのスポーツ団体一覧」は、様々なスポーツ団体があることを市民に知ってもらう機会になっている。また、ポータルサイト「ナニスル」への掲載は効果的である。 ・優秀な指導者の下で幼少期から専門的な技術指導を受けたアスリートが、国内・国際大会で活躍している。本市においても多くの競技団体が選手育成に努力されており、多くの選手が輩出されることを期待したい。 ・リオパラリンピック選手の駅伝出場は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックへの関心や機運を高めたと思われる。 ・保健師と健康運動指導士が事業連携する「健康・体力相談」の取り組みは評価できるが、健康運動指導士が1名では少ない。例えば、日本健康マスター等は正しい運動の方法を教えたり、健康に必要な基本的な栄養情報を提供しており、健康運動指導士以外の資格でも対応が可能なのか等検討してもらいたい。 	

事業名	小・中学校を拠点とした子どもの健康・体力づくり
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(3)
事業のねらい	子どもの運動不足解消や体力・運動能力の低下の改善のための、情報提供及び環境づくり。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①体育授業や運動部活動への指導者の派遣	派遣先との調整	指導者の派遣	
②ふれあいスクール、放課後児童クラブ等と連携した子どものスポーツ実施機会の提供	派遣先との調整	指導者の派遣	
③子どものスポーツや健康づくりに関する情報提供・相談対応	内容検討	情報提供や相談への対応の実施	

平成30年度の実施結果・特筆すべき実績	
①体育授業や運動部活動への指導者の派遣	<p>市立中学校3校(平成29年度は2校)において、学校支援地域本部が派遣する形で、PTA・OB/OG・顧問の紹介等による地域講師が部活動の指導を行った。派遣先の運動部系部活動は3校合計で8部16名(平成29年度は4部9名)の外部指導員が派遣された(逗子中:バドミントン部2名、バレーボール部1名、久木中:陸上競技部1名、卓球部1名、野球部6名、沼間中:テニス部1名、剣道部4名、バドミントン部1名)。</p> <p>学校側の要請により、沼間小学校及び久木小学校において、教職員を対象に逗子市スポーツ推進委員がポッチャの講習会を行った。その後、久木小学校ではポッチャが体育の授業で行われた。3月には逗子市スポーツ推進委員協議会が主催するポッチャ大会(自由参加)が逗子市立体育館にて開催され、両小学校から児童がチームを組んで参加した。</p>
②ふれあいスクール、放課後児童クラブ等と連携した子どものスポーツ実施機会の提供	<p>逗子市卓球協会が子育て支援課から委託を受け、体験学習施設スマイルにおいて、子ども卓球教室を実施した。小学3年生～6年生を対象に5回実施し、受講者数は延べ71人であった。</p> <p>逗子市スポーツ推進委員が久木小学校のふれあいスクールを利用して、いる児童にポッチャの指導を行った。</p>
③子どものスポーツや健康づくりに関する情報提供・相談対応	<p>年度当初に「小学生のためのスポーツ団体一覧」を市立小学校の全児童に配付するとともに、市ホームページ、ポータルサイト「ナニスル」等で公開し、周知に努めた。掲載情報は、情報を更新し、充実を図った。</p>

平成 30 年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OB/OG 中心の外部指導者を活用することで、学校でのスポーツ活動への理解が高く、スムーズな指導を実施することができる。 ・学校側の目的である障がいのある児童がスポーツを楽しむ「場づくり」のきっかけを作る。また、運動が不得意な子どもでも楽しめるポッチャを通じて、運動する子どもとしない子どもの二極化解消のきっかけにもなる協力を行うことができる。 ・毎年「小学生のためのスポーツ団体一覧」の情報を更新することで、スポーツを始めたい子どもに最新の情報提供ができる。 	
<p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動部活動への地域の外部指導者の派遣は、地域と子どもがつながるきっかけとなるだけでなく、より専門性の高いスポーツに触れる経験や効果的な指導を受けることで、運動能力の向上や競技スポーツへの関心を高めることも期待できる。 ・子どもが市内のスポーツ団体での活動を行うようになると、学校以外のスポーツを通じた地域内交流を経験することができる。 	
所管課による自己評価	<p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。 C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。 D：事業見直し、又は事業中止。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の派遣が行われ、件数も増加している。 ・「小学生のためのスポーツ団体一覧」の情報更新は行っている。健康づくりに関する相談対応は全年齢対象の「健康・体力相談」による対応のみとなっている。 ・全体としてBと評価する。 	

審議会での意見	
<p>●評価は <u> B </u> が適切と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体育の授業や運動部活動への指導者の派遣」については、平成 29 年度を上回っているため評価できる。 ・この時期に運動に関心を持ち経験する機会を増やすことは、怪我の予防はもとより将来的にも体力づくりや健康づくりにつながっていくと思う。 ・中学校については、国の働き方改革にあるように、教員の仕事量の多さが問題になっている。地域講師が部活動の指導を行うことは、教員の助けにともなっていると思う。 ・スポーツ推進委員が3月にポッチャ大会を開催し、小学校でスポーツ推進委員から講習を受けた小学生が参加していたことは評価できる。 	

事業名	「うみかぜクラブ」の活動内容の充実
スポーツ推進計画での位置づけ	重点的に取り組む4つの事業の(4)
事業のねらい	生涯にわたって、誰もが、気軽にスポーツを楽しみながら、健康維持・増進と地域の交流を深めることに寄与し、クラブの自立化・安定化を図る。

主な事業	2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度)	2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度)	2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度)
①経営の自立化に向けた検討・調整	自立に向けたビジネスモデルの検討		自立化
②広い世代を対象とするための取り組みと実施	取り組み方の検討	実施	見直しと実施
③高齢者や障がい者向けのスポーツ・体づくり教室の実施	取り組み方の検討	実施	見直しと実施
④スポーツメニューの見直し	取り組み方の検討	実施	見直しと実施

※事業決算については、うみかぜクラブの自主財源により事業を実施していることから省略。

平成30年度の実施結果・特筆すべき実績																									
①経営の自立化に向けた検討・調整	<p>平成29年度をもってスポーツ振興くじ助成金が終了したこと、平成31年度から施設使用料の負担が発生すること、及び市の財政対策プログラムによる市立体育館の休館日変更(毎週月曜日休館)に伴ううみかぜクラブの開催日が減少すること等を踏まえ、新たな収入の確保及びメニューの見直しによる支出の削減に係る具体的な方策を検討、実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加費制度を導入し、会員以外も参加できるようにした。 ・新たな収入の確保として、1回100円の都度会費を、一部のメニューから全てのメニューへ対象を拡大した(ジュニアは無料。非会員は500円)。 ・ジュニアの年会費を2,400円から3,600円に値上げした。 ・施設使用料負担の大きい、逗子文化プラザ市民交流センター屋内温水プールで実施していたメニューは廃止した。 ・その他のメニューについても、参加人数・参加率に合わせてメニューの廃止、追加、時間の変更を行った。 																								
②広い世代を対象とするための取り組みと実施	<p>メニュー数は、昨年と比較して5メニュー(プール4メニュー、フォークダンス※)少ない13メニューであり、それに伴い、延べ開催数は722回(H29は1,062回)と減少した。延べ参加者数も22,320人(H29は32,238人)と減少している。(延べ開催数68.0%、延べ参加者数69.2%)。</p> <p>(※フォークダンスは、毎週月曜日が休館になったことにより廃止)</p> <p>【年代別の登録者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～19歳</td> <td>118人</td> <td>86人</td> <td>53人</td> </tr> <tr> <td>20～39歳</td> <td>24人</td> <td>21人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>40～59歳</td> <td>138人</td> <td>126人</td> <td>76人</td> </tr> <tr> <td>60歳～</td> <td>634人</td> <td>626人</td> <td>485人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>914人</td> <td>859人</td> <td>633人</td> </tr> </tbody> </table>		H28	H29	H30	0～19歳	118人	86人	53人	20～39歳	24人	21人	19人	40～59歳	138人	126人	76人	60歳～	634人	626人	485人	合計	914人	859人	633人
	H28	H29	H30																						
0～19歳	118人	86人	53人																						
20～39歳	24人	21人	19人																						
40～59歳	138人	126人	76人																						
60歳～	634人	626人	485人																						
合計	914人	859人	633人																						

	<p>国保健康課が実施している特定健診の受診者向けに、うみかぜクラブメニューの1回無料券を配付して、新規の人の利用を促した。</p> <p>また、全てのメニューにおいて初回限定で無料とし、2月の「うみかぜまつり」ではバドミントン、卓球及び社交ダンスの無料体験を開催する等、新規の人でも参加しやすい工夫を行った。</p>
③高齢者や障がい者向けのスポーツ・体力づくり教室の実施	<p>高齢者対象のメニューとして「高齢者体力アップ体操」を実施し、2,000人（H29は2,092人）の参加があった。また、高齢者限定のメニューではないが、「健康体操」、「太極拳※」などは大変多くの高齢者が参加しているメニューである。（健康体操3,115人（H29は3,663人）、太極拳1,164人（H29は639人））。（※「太極拳」はニーズに応じて実施回数を増やした。）</p> <p>特に「健康体操」や「卓球」については、年齢や障がいの有無にかかわらず、どなたでも参加できるようにしている。</p>
④スポーツメニューの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツをしない方にもスポーツを始めるきっかけづくりとなるように、文化メニューの検討を行い、平成31年度より、習字と手芸をメニューにすることを決定した。 ・施設使用料負担の大きい逗子文化プラザ市民交流センター屋内温水プールで実施していたメニューについては、市民交流センターの自主事業へ移行した。

平成30年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み	
事業を行ったことにより想定される効果	
<p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うみかぜクラブの自立に向けた様々な具体的な方策が検討され、実施された。助成金の終了や、施設使用料負担が発生しても対応できる、経営の自立化が図られる。 ・高齢者や障がい者がスポーツや体力づくりに向けた運動を取り組むきっかけづくりを提供できる。 	
<p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤字となる事業を廃止し、次年度に向けて新たな取組や工夫をしたことにより、延べ開催数及び参加者数は大きく減少したが、事業全体としてはスリム化したため、今後の自己財源比率の向上が期待できる。 	
所管課による自己評価	<p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。 C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。 D：事業見直し、又は事業中止。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ振興くじ助成金が終了し、施設使用料の負担の発生や、市の財政対策プログラムの影響による開催日の減少等、うみかぜクラブの経営を取り巻く環境は悪化しているが、会費制度の見直しと変更、メニューの改廃や時間変更等により、事業のスリム化を図り、会員のニーズに応えるメニュー構成とすることで、自立化・安定化に向けた体制を構築することができた。 ・全体としてBと評価する。 	

審議会での意見	
<p>●評価は B が妥当と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加費制度を導入したことやジュニアの年会費を値上げしたこと、1回100円の都度会費を拡大したことなどは、経営の自立化に向けた取組として評価できる。 ・安定的に継続していくために会費の値上げに踏み切る等様々な問題があったが、参加者もこうした現状を理解しながら、うみかぜクラブを充実させていくことが逗子市にとっては大切なことである。 ・世代を問わず様々な競技を行っていることには意義がある。特に高齢者の方の登録が多いことは特筆すべきで、未病対策にもつながると評価できる。 	